

結核の歴史は、紀元前にさかのぼります。現在確認されている最古の証拠は、ドイツで発見された新石器時代（紀元前 5000 年ごろ）の墓から発掘された結核の病巣です。またミイラの発掘調査から、紀元前 4000 年ごろのエジプトでは結核が一般的な病気であったことも確認されています。

17 世紀中ごろには、ヨーロッパで結核が大流行しました。ロンドンでは、5 人に 1 人の死因が結核であったという記録が残されています。その後イギリスのみならず、アメリカやヨーロッパの主要都市でも肺結核が大流行しました。19 世紀初頭には年間 5000 万人が肺結核を患い、700 万人が死亡したと言われています。有効な治療法がなかった当時、患者は山奥の施設やアフリカなど暖かいところに隔離されました。

結核の治療は、1882 年 3 月 24 日、ドイツの医師・細菌学者であったロベルト・コッホによる結核菌の発見により、一気に進展します。1931 年にはフランスのカルメットとゲランが結核に有効なワクチン「BCG」を開発、1944 年には米国のワックスマンらが世界初の結核治療薬「ストレプトマイシン」を発表し、21 歳の女性の治療に成功しました。さらに 1946 年には「パラアミノサリチル酸」、1952 年には「イソニアジド」という新たな治療薬が開発されたのです。1960 年には、クロフトンがこれら三種の混合治療薬を提唱し、結核は適切な治療により完治可能な病気となりました。

こうした進展にも関わらず、結核は依然として猛威を振るっています。1993 年には世界保健機関（WHO）が結核非常事態宣言を発表しました。日本でも、1999 年に厚生労働省が結核非常事態宣言を発令しています。

さらに近年では、既存の治療では対応できない結核も出現しています。1995 年にはロンドンで二種類の治療薬に耐性を示す多剤耐性結核（MDR-TB）が確認されました。また 2006 年にはさらに耐性の進んだ超多剤耐性結核（XDR-TB）も登場しているのです。

主なリソース：<http://www.ukcoalition.org/tb/history.html>